

# 高校国語の授業スタイルの改善に関する研究

—OPPシートを活用した授業実践を通して—

M12EP005

榊原典子

## 1. はじめに

従来の講義式の授業スタイルでは、生徒が本当に学んでいるかどうかわかるのだろうか。ここでいう授業スタイルとは、授業形態のことであり、どのような形態で授業をするのかということの背景には教師の指導観も含まれている。生徒が主体的に考え、自ら学ぶ授業を行うためにはどのように改善すればよいのだろうか。とりわけ高校では、生徒が能動的かつ自ら考える授業を行うことは難しい。そこで本研究では、授業スタイルの改善の方策とその有効性を明らかにしたい。

## 2. 先行研究

### (1) 先行研究

高校国語の授業スタイルに関する研究についてはほとんどない。

### (2) 授業スタイルに関する課題

講義式の授業スタイルで、教師は教えたという実感を持つかもしれないが、生徒の学びについては、試験などにより確認するしかなかった。授業を実施しながら確認することについては未解決であったと考えられる。授業中に生徒が学習内容に対してどう考えているのか、何についてどれだけ学んでいるかは疑問であった。

## 3. 研究の目的

本研究は、高校国語の授業スタイルの改善を目的としている。具体的には、以下の二点である。

(1) 教師による講義形式の授業スタイルと生徒が主体的に活動する授業スタイルを比較検討する。

(2) 一つの単元の中で上記二つの授業スタイルを実施し、OPP (One Page Portfolio) シートでそれらの有効性を検証する。

## 4. 研究の方法

### (1) 実習校と実習方法

- ① 実習校 山梨県立 N 高等学校
- ② 実習期間 2012年6月～11月
- ③ 観察実習 3年国語表現 1年2・4組
- ④ 授業実施 1年2・4組国語総合 9時間  
単元『ネットが崩す公私の境』

(2) 教師による講義形式の授業スタイルと生徒が主体的に活動する授業スタイルとの比較検討を OPP シートを用いて行う。

## 5. 研究の結果と考察

### (1) 授業スタイルの比較検討

授業において、そのスタイル変更の必要性を感じているが、現実には具体的にどうするのか不明であった。そこで、講義式のスタイルと生徒が主体的に活動するスタイルを取り上げ、比較検討する。

#### ① 講義式の授業スタイルについて

講義式の授業スタイル(図1参照)では教師が教材研究を通して知識・正解を生徒に伝えることが中心となる。授業のねらいの達成が知識の習得や正解到達と重なる部分が多い。

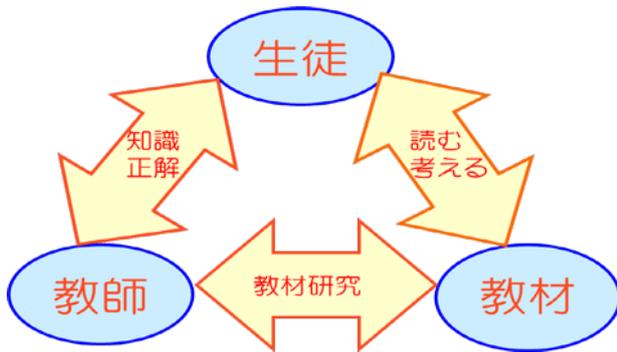


図 1 講義式の授業スタイル

生徒は教材に取り組んだり考えたりもするが、生徒相互の関係や、発問からの発展があまり見られない。

次に、生徒主体の授業スタイル(図 2 参照)を説明する。まず教師の働きかけにより、個人で教材に取り組み、個人の考えが構成される。次にグループで個人の考えを発表・交流するとともに、再度教材へ取り組み、グループでの考えが構成される。次に各グループでの考えの発表・交流、教材への取り組みにより、クラス全体での考えが構成される。クラス全体での活動において構成された考えは各グループ・個人に取り入れられ練られることにより、個人の考えの深化・発展へとつながる。このサイクルを循環させることにより、生徒の学びが深まるのである。表 1 は、講義式の授業スタイルと生徒が主体的に活動するスタイルの長所短所を比較したものである。

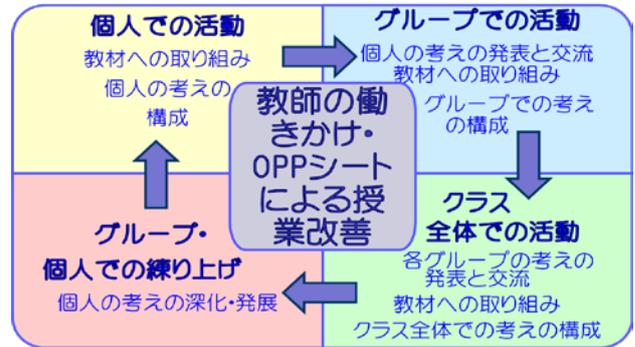


図 2 生徒が主体的に活動するスタイル

## (2) OPP シートによる授業スタイルの有効性の検証

今回は、一つの単元の中で授業スタイルを変更して検証を行った。なぜなら、同じ単元で変えた方が効果をより確認しやすいと考えたからである。それぞれのスタイルのメリット・デメリットを踏まえ、その有効性を検証するものとする。

表 2 は授業計画と実践した授業スタイルと授業の概略であり、図 3・4 は作成した OPP シートと記入例である。第 5 時までは本文の内容を確実に読み取ることに重点を置いたので講義式の授業スタイルで計画・実施した。第 6 時からは第 5 時までで読み取ったことをもとに、各自が考えを持つこととその交流・考えの再構成に重点を置いたので、生徒が主体的に活動するスタイルで計画・実施した。

表 1 講義式の授業スタイルと生徒が主体的に活動するスタイル

	講義式の授業スタイル	生徒が主体的に活動するスタイル
長所	教師の意図した授業展開 計画通りの実施 効率よく知識・正解を伝達 指導目標の達成度の高さ	生徒の主体的取り組み グループ・クラスでの活動が生徒個人に還元 生徒自ら問いの設定 生徒個人の考えが深化・発展 活動サイクルのスパイラルな展開
短所	教師の一方的説明と受動的な生徒 発問が教師対一生徒で完結しがち・閉じた発問 生徒間の発展的活動が少なさ 考えの深化・発展が難しい 学びの広がりにくさ	授業展開の予想しづらさ 授業進度管理の難しさ 授業内容統一における配慮 指導目標達成不足の懸念

表 2. 計画・実践した授業内容とスタイル

時	スタイル	授業計画	実践した授業	OPP シート
1	講義式の授業スタイル	インターネットについての自分の考えと筆者が伝えたいこと	インターネットの二面性と筆者が抱く不安	学習前 学習履歴①
2		インターネットの持つ力は良くも悪くも圧倒的	書くことも読むことも真剣さが必要	学習履歴②
3		インターネットでは、情報の内容や質による淘汰が働かない。	インターネットがもたらす社会の改善と破壊	学習履歴③
4		誰もが簡単に意見を公表できる事態は腐敗を招く。	インターネットのもたらす危機	学習履歴④
5		腐敗させるとはどういうことなのか。	インターネットの便利さと矛盾	学習履歴⑤
6	生徒が主体的に活動するスタイル	腐敗させることについて話し合う。	各自でインターネットの特徴を三つ挙げる。	学習履歴⑥
7		インターネット社会において自分は今からどうしていくかをまとめる。	グループごとにインターネットの特徴について話し合ってもらい、発表する。	学習履歴⑦
8		まとめ	インターネット社会への対応についての意見文を書き、相互に交流し、気づいたこと考えたことをまとめる。	学習履歴⑧
9		まとめ	まとめ	学習後 自己評価

① 講義式の授業スタイルの課題

図 5 第 2 時での学習履歴の記述は「誰もが読めることは書くことも考えることも腐敗させる」とテキストを抜粋している。要旨をつかんでいるとは言えるが、そこから筆者が何を言おうとしているのかはつかめていない。そこで、指導案に問題があると仮定し、第 3 時から生徒の反応例を多くあげたり、発問

と指示に分けたりし、詳細なものに変更した。しかし、図 5 第 3 時の記述では、「活版印刷では権威者と読者が上下構造だが、インターネットでは誰もが著者になり得る」と二項対立で整理した板書の内容をまとめているに過ぎない。何のために筆者が二項対立を用いているかの考察がみられない。

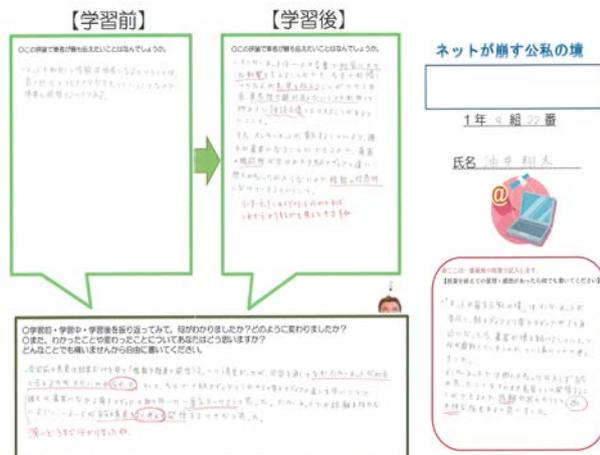


図 3 作成した OPP シートの表面と記入例 (S.Y 男子)



図 4 作成した OPP シートの裏面と記入例 (S.Y 男子)

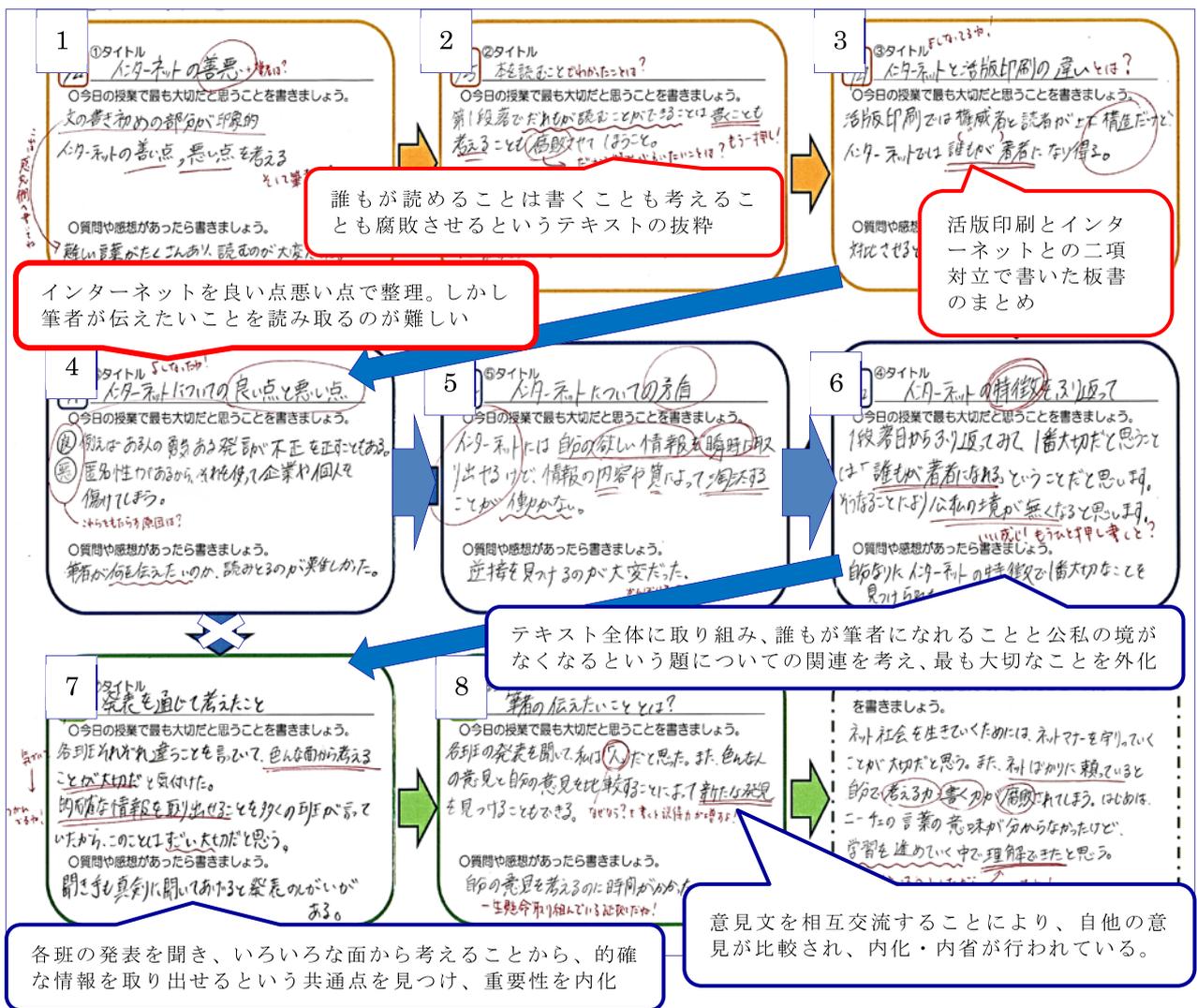


図5 OPPシート裏面(S.Y女子)

第4時でも、インターネットの良い点と悪い点という視点からテキストの内容を整理した記述であり、読み取りが難しいと感想に書いている。もちろん、要旨をつかむことや書き方や視点に基づいて内容を整理することも必要である。しかし、授業で最も大切なことが、テキストの内容の抜粋や板書の一部という、既にしてあることを選択した記述でよいのだろうか。これらは表面的な記述と言うことができ、内容が確実につかめているかは不明である。各時の内容と筆者が最も伝えたいこととの関連性について学べていないことが指摘できる。

生徒が授業の内容で何が最も重要なのかと内化、内省し、外化しているとは言えないという課題が見つかった。

## ② 生徒が主体的に活動する授業スタイルの効果

### 【第6時の授業の効果】

第6時では生徒が主体的に教材に取り組むことで個人の考えを持つことをねらいとした。主発問は「インターネットの特徴を各自で三つ挙げる」である。各自で三つ挙げたものを4人グループで話し合ってもらい、発表することも指示した。これは、正解への到達や、正解の理解を意図してはいない。生徒が主体

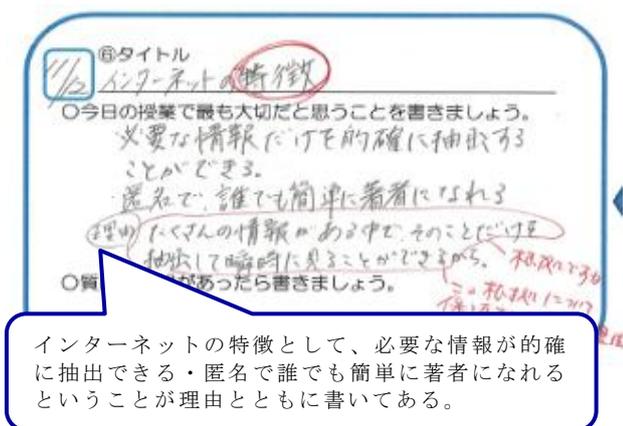


図 6 第 6 時 OPP シート学習履歴の例 (S.S 女子)

的に教材に取り組みながら、自分の考えに照らし合わせて、考えの調整・構成を行い発表するという内化・内省・外化の活動である。

この活動により、生徒は主体的にテキスト全体を振り返り、その中からインターネットの特徴である「誰もが著者になれる」ことが「公私の境が無くなる」ことにつながると気づいている。インターネットの特徴と題との関連を見出すという読みの深まりが見とれる。この記述は、「自分なりにインターネットの特徴で一番大切なことを見つけられた」と納得して書いているものである(図 5 第 6 時参照)。

別の生徒は、「必要な情報が的確に抽出できる・匿名で誰でも簡単に著者になれる」と大切なことを書くだけでなく、なぜそれが大切なのか自分で考えた理由も付け加えて記述するようになった(図 6 参照)。

### 【第 7 時の授業の効果】

第 7 時では、個人の活動で持った個人の考えをグループで交流し、グループでの考えを構成する活動を行った。生徒は付箋に個人の考えを書き、考えの共通点や独自性などの視点でまとめた。まとめたグループの考えをクラスで発表した。

「各班それぞれが違うことを言っていて、色んな面から考えることが大切だと気付いた。明確な情報を取り出せることを多くの班が言

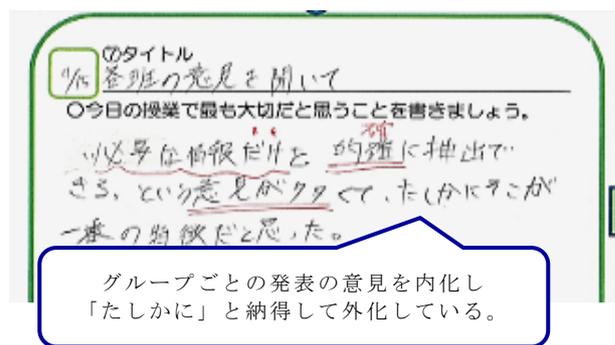


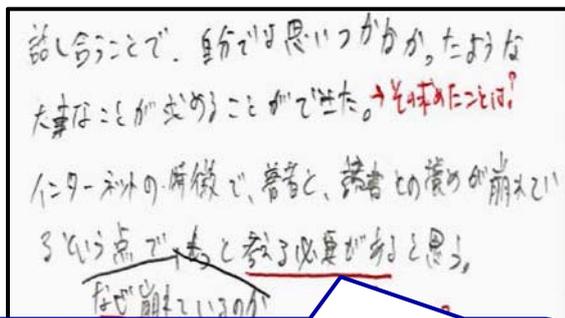
図 7 第 7 時 OPP シート学習履歴の例 (S.S 女子)

っていたから、このことはすごい大切だと思う。」(図 5 第 7 時参照)とあるように、多様な視点から発表される意見に触れ、様々な面から考えることの大切さに気づいている。ここでは、まとめていく過程や発表を聞くことにおいて、個人での内化・内省・外化も行われたことが見とれる。他にも、グループでの考えを構成することを通して「必要な情報だけを的確に抽出することができる」ということを「たしかに」と納得している記述がみられる(図 7 参照)。

加えて、「話し合うことで、自分では思いつかなかったような大事なことが求められることができた。」と学びあう重要性を指摘したり、「インターネットの特徴で、著者と、読者との境め(原文まま)が崩れていくという点でなぜ崩れているのかもっと考える必要があると思う。」とさらに深い読みを求めて、自ら学習目標を設定している記述も出てきた(図 8 参照)。

### 【第 8 時の授業の効果】

第 8 時ではクラス全体でネットが何を腐敗させるかについて考えることと、インターネット社会への対応について意見文を書き、相互に読みコメントを書くことを行った。意見文を相互に読み、コメントを書くことによって「いろんな人の意見と自分の意見を比較することによって新たな発見を見つけることができる」と内化・内省が行われている。



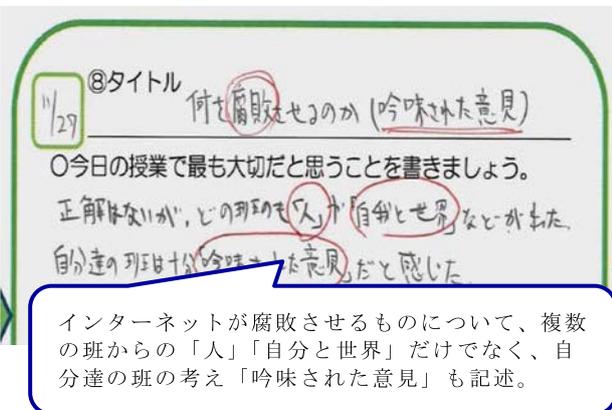
話し合うことで、自分では思いつかなかった大事なことが求められている。著者と読者の境の崩れについてもっと考える必要があると自ら学習目標を設定

図 8 第 7 時 OPP シート学習履歴の例(N.W 男子)

ただ、新たな発見の内容が記述されていないことについては教師のコメントによる働きかけなどを行い、改善すべき課題である（図 5 第 8 時参照）。

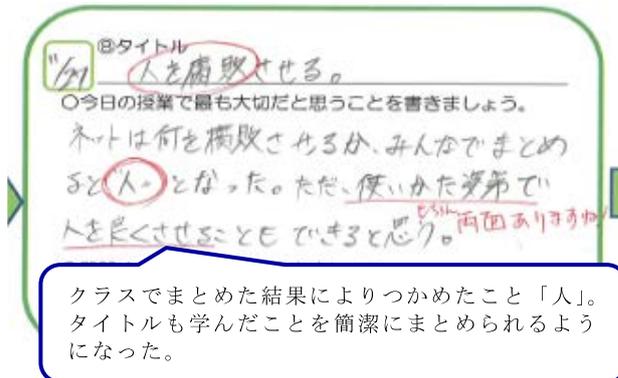
また、インターネットが何を腐敗させるかについては「人」「自我と世界」と共通して出された意見と自分たちの班の「吟味された意見」とが記述されている(図 9 参照)。クラス全体で取り組むことによって生徒からこのように意見が出てきたことは、テキストの読みが深まったことを示している。

しかし、これらの意見を磨き合わせてより良い意見にまとめていくことや、「人」を腐敗させるとはどのようなことなのか(図 10 参照)については、練り上げ不足が見とれる。図 2 からすれば、クラスでの考えを構成し、グ



インターネットが腐敗させるものについて、複数の班からの「人」「自分と世界」だけでなく、自分達の班の考え「吟味された意見」も記述。

図 9 第 8 時 OPP シート学習履歴の例(Y.K 男子)



クラスでまとめた結果によりつかめたこと「人」。タイトルも学んだことを簡潔にまとめられるようになった。

図 10 第 8 時 OPP シート学習履歴の例(S.S 女子)

ループ・個人で練り上げることになるのだが、今回はできなかったのが、今後の課題である。

### 【授業スタイル変更による生徒の変容】

これらの活動から、個人の考えが深化・発展し、学んでいることが示された。内化・内省した内容が OPP シートに記述として外化され、変容を見とることができた。

授業のねらいは学力をつけることだと言える。すぐに剥落する学力ではなく、生徒にとって生きて働く学力をつけることが重要である。その点から考えると、生徒が主体的に活動する授業スタイルは学習内容を自分なりに納得し、内化できること、このサイクルが循環することによって、考えが深化・発展することが特徴である。内化した内容を発表したり、話し合ったりする外化を通してさらに内化・内省し、より深い理解となることが示された。学習履歴から生徒が主体的に活動するスタイルの有効性が示されたと考えられる。

授業スタイルを変えることで、現れた生徒の変容について三点から検討する。

#### 1) テキストの読みの深まり

図 11 自己評価欄には、インターネットが腐敗させるのは「社会」や「考えること」であると指摘し、「一人ひとりが考え、ネットの使い方を見直すことでよい世界が作れるのではないか」と個人の考えと世界との関係につ

**【学習前】**

○この評議で筆者が最も伝えたいことはなんでしょうか

たぶん、ネット上でいろいろなことを発言、発信できる時代になっているから、人ひとりが、個人や企業などをこぼしてしまうことがとても大変な事態だということを伝えたいのだと思う。

**【学習後】**

○この評議で筆者が最も伝えたいことはなんでしょうか

ネットには良い点も悪い点もある。私たちに間接的に社会下で作り出すこと、「いいこと」も「腐敗」もしてしまうかもしれない。「いいこと」も「腐敗」もしてしまうかもしれない。よき世界がつかない、悪いこともしなくていい、「いいこと」も「腐敗」もしてしまうかもしれない。

腐敗させるのは「社会」「考えること」  
個人の考えがよい世界を作ると考察

○学習前・学習中・学習後を振り返ってみて、何がわかりましたか？どのように変わりましたか？  
○また、わかったことや変わったことについてあなたはどう思いますか？  
どんなことでも構いませんから自由に書いてください。

学習前はインターネットはいいことだらけだと思っていました。しかし、学習するうちに「考える」という人間らしい行動がなくなっているのではないかと感じました。だからネットを使うときに「考える」を大切にしたい。だから「考える」を大切にしたい。だから「考える」を大切にしたい。

学習により「考えるという人間らしさの喪失」への気づき。「考える・判断」を大切にしたい。

図 11 学習前後と自己評価欄の記述例(M.N 女子)

いての考察がある。そして学習により、「考えるという人間らしさの喪失」に気づき、「考える・判断を大切にしたい」と今後の自分の行動への指針を持つようになったことも記述されている(図 11 参照)。

また、こうした記述は高等学校学習指導要領に示されている「国語を適切に表現し的確に理解する能力を養成し、伝えあう力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」ということに迫るものと考えられる。

## 2) 主体的活動の意味の発見

「最初の頃は人の意見を待っている時が多かった」が、最後は「自分でまず考えて、相手に発表し、考えをまとめる能力が付いた。相手に伝える時どうやったらわかりやすいか

**授業の最初の頃は人の意見を待っている時が多かったが、最後は自分でまず考えて、相手に発表し、考えをまとめる能力が付いた。相手に伝える時どうやったらわかりやすいか**

人の意見を待っていた、から、自分でまず考えるようになった。相手のわかりやすさを考えて話すことが身に付いたと実感

図 12 自己評価欄への記述例(R.E 女子)

最初の頃は、この本の内容が全然理解できなかったときも、たけしと授業をしていくうちに筆者のつたえにこころやままで理解できなかったことも理解できるようになったよかったです。みんなと話し合うことで気づくことがたくさんあったので、その点でもよかった。

みんなで話し合うことで気づきがたくさんあってよかった

図 13 自己評価欄への記述例(Y.F 男子)

を考慮して話すことが身に付いた。」と自分で考えるようになり、伝え方を工夫するようになった。授業へ主体的に取り組む姿だと言える(図 12 参照)。「みんなで話し合うことで、気づくことがたくさん」と考えの発表と交流による学びに気づいている(図 13 参照)。

「自分が進歩した」と生徒が成長を実感し、「進歩したところを他の単元やこれからにも活かしたい」と意欲が喚起されており、他の学習への転移も述べられている(図 14 参照)。

この授業を通して自分が進歩したな、と思えたところがいくつかあったので良かったな、と思う。『伊と伊?』その進歩したところをこの学習だけに留めずに他の単元やこれからにも活かしたい。

進歩の実感と進歩したことを他の単元やこれからに活かしたいと意欲の喚起・他の学習への転移を記述

図 14 OPP シート感想の例(K.K 女子)

